



2018年度のソーシャルアートラボの取り組みから

特色ある取組

九州大学大学院芸術工学研究院は、2015年4月に「ソーシャルアートラボ」を設置しました。ラボでは、**社会の課題に関わり、人間どうしの新しいつながりを生み出す芸術を「ソーシャルアート」と捉え、教育・研究・実践・提言を行なっています。**

2015～2017年度は「地域づくり」をテーマに、2018年度からは「社会包摂」をテーマに活動しています(文化庁「大学における文化芸術推進事業」)。特に2018年度からは、**障害・災害・過疎などの社会課題に芸術活動ができることについて実践的に模索することと、そうした現場を支える人材育成のプログラムを運営しています。**

受講生は九州大学の学生ばかりではなく社会人からも広く募っているのが特徴で、まちづくり・福祉・教育など多分野異業種の人たちが**芸術について学ぶことで得た気づきを、自らの現場や将来の仕事選びなどに活かす機会**となっています。

上記取組による成果・評価 など

2018年より文化庁との共同研究事業も実施しています。その成果物として2019年3月に作成した「**はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック**」は大きな反響を呼び、各地の大学や地方自治体で教材として活用されています。

取材対応者(予定)

副ラボ長(芸術工学研究院准教授)

中村 美亜

本事業の研究代表者で、教材開発や公開講座の企画を担当。専門は芸術社会学。



構成教員(芸術工学研究院助教)

長津 結一郎

実践講座のうち障害のある人の表現活動、過疎地での芸術活動の実践講座の企画を担当。専門はアーツマネジメント。



参考URL

・ソーシャルアートラボHP
<http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/>

